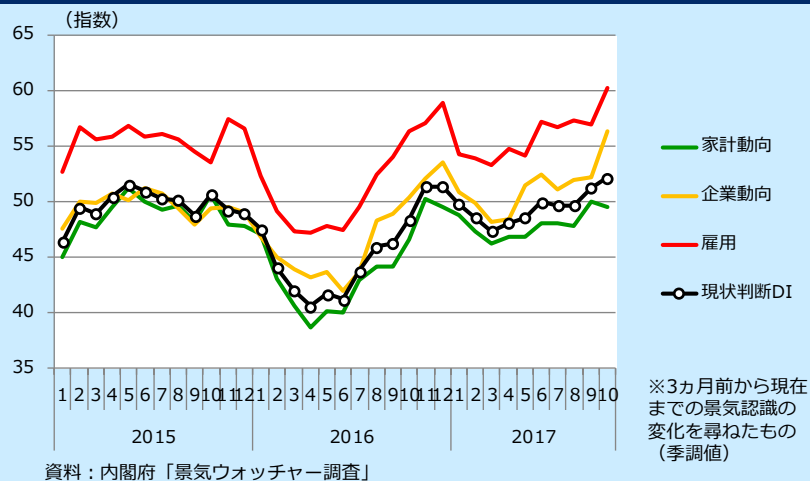


# 日本：マインド関連指標（2017年10月）

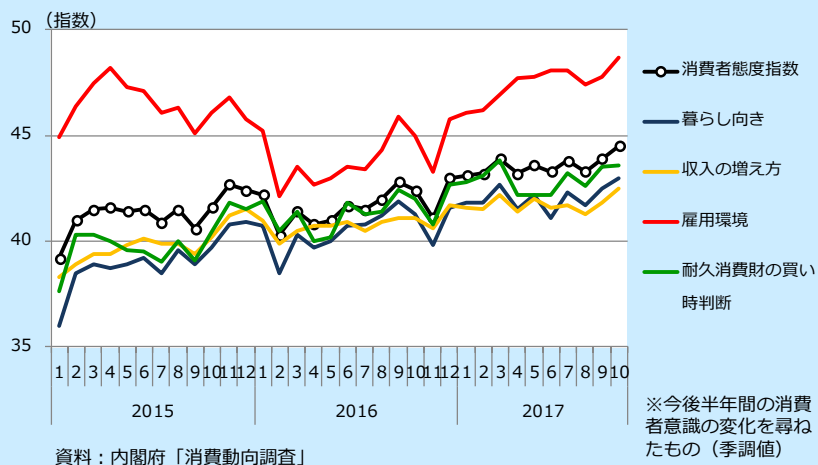
## －内外需の堅調を背景に、マインド改善持続－

*MRI Daily Economic Points*  
November 9, 2017

### 景気ウォッチャー調査



### 消費動向調査



### 評価ポイント

#### 景気ウォッチャー調査(11/9公表)

- 17年10月の景気の現状判断DI(3カ月前からの景気認識の変化、季調値)は、前月から+0.9p上昇の52.2となり、消費税率引き上げ直前(14年3月)以来の高水準となった。内訳をみると、家計動向関連は若干低下したが、企業動向関連、雇用関連は大幅に上昇した。
- 家計動向関連は、台風・長雨や衆議院選挙の影響もあり、小売関連(前月差▲1.2p)、飲食関連(同▲6.4p)とそれぞれ低下した。一方、住宅関連が同+5.2pと大幅に上昇している。株高や消費税率の引き上げ観測の強まりなどから、住宅購入を前向きに検討する人が増えているとみられる。
- 企業動向関連は、北米向け自動車輸出の増加、秋冬商材の堅調など、内外需ともに好調であることから、同+4.1p上昇した。
- 雇用関連は、求人数の増加、なかでも正社員求人が全国的に増加しているとみられる。労働需給の一段の逼迫を反映して、同+3.3p上昇した。
- 景気の先行き判断DI(2~3カ月前までの変化)は54.9と、前月から+3.9p上昇した。構成要素すべてが前月を上回っている。

#### 消費動向調査(11/2公表)

- 9月の消費者態度指数(今後半年間の消費者意識の変化、季調値)は、前月から+0.6p改善し44.5となった。13年9月以来の高水準である。
- 構成要素もすべて9月より改善している。9月は他の構成要素と比べてやや低調であった「収入の増え方」と「雇用環境」が、今回は他の要素より高い伸びを示している。労働需給の逼迫とそれによる賃金の上昇圧力が、緩やかにマインドを改善しているとみられる。

#### 基調判断と今後の流れ

- 家計と企業のマインドはいずれも改善している。
- 家計のマインドの先行きは、良好な雇用環境や株高を背景に、18年にかけて緩やかな改善持続を予測する。企業マインドも、堅調な内外需に支えられ、継続的な改善を見込む。